

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：23201
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：18K17586
研究課題名（和文）妊娠期からのポピュレーションアプローチ 育児困難心性尺度の使用可能性の検討

研究課題名（英文）Population approach from the pregnancy period -Usability considerations of psychometric inventory of childrearing difficulties for evaluating child abuse risk-

研究代表者
寺井 孝弘（TERAI, Takahiro）
富山県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：20595326
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、子ども虐待の一次予防の観点から支援が必要な親のリスクアセスメントを行うために作成した育児困難心性尺度(Terai, 2020)が、妊娠期の母親に適応可能かという点について検討した。この尺度は乳幼児のいる親を対象に信頼性・妥当性を検討しているため、今回は妊娠期の母親を対象に分析を行った。
結果として、全国の妊娠期の母親を対象にWeb調査を実施して322名の回答を得た。分析は確認的因子分析を行い、 $\chi^2(523) = 1909.9$ 、有意確率 = .000、GFI = .714、AGFI = .674、CFI = .729、TLI = .710、RMSEA = .091というモデル適合であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
育児困難心性尺度は、乳幼児のいる親を対象にしていたが、今回の研究結果から妊娠期の母親にも適応できることが示唆された。このことによって、妊娠期の母親が育児困難に陥るリスクアセスメントの一助になり、また支援が必要な親を抽出し、援助職者が早期から支援を行うことで子ども虐待の一次予防に繋がると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The study examined whether the psychometric inventory of childrearing difficulties for evaluating child abuse risk (Terai, 2020) can be applied to pregnant mothers. The data were collected in a web survey of pregnant mothers in Japanese countries. Confirmatory factor analysis was performed on 322 expectant mothers. As a result of the analysis, $\chi^2(523) = 1909.9$, $p = .000$, GFI = .714, AGFI = .674, CFI = .729, TLI = .710, RMSEA = .091.

研究分野：小児看護学

キーワード：妊娠期 育児困難 児童虐待 虐待予防 尺度 ポピュレーションアプローチ

1. 研究開始当初の背景

現代の超少子化、地域における関係性の希薄化という複雑な環境の中で、母親のメンタルヘルスは重大な課題である。その中で「健やか親子 21 (第 2 次)」では、「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」、「妊娠期からの児童虐待防止対策」を重点課題として「切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策」を実施している。児童福祉法の改正でも出産後の養育について、出産前の支援が特に必要な妊婦として「特定妊婦」を設定し、その養育が適切に行われるよう相談、指導、助言等の支援を行う必要があるとしている。

また、虐待予防には 3 つの段階があり、現在では 1 次予防が推進されている。虐待の 1 次予防は「ハイリスク家庭の把握と援助」であり、大多数の健全な家庭の中からハイリスクな家庭を見つけ出すことが肝要である。そのためには、妊娠期から親の虐待リスク要因を確認していくことが必要である。虐待リスク要因には、親の対人関係の取り方や被虐待歴、心理的特徴という親の要因、障がいがあるなどの子の要因、サポート状況などの環境要因という複数の要因があり、親の要因の影響は少なくない。その心理的な特徴は、子どもとの接し方にも影響を与え、抑うつや虐待状況に繋がる可能性のある「育児困難心性」である。この親の育児困難心性に着目した尺度が妊娠期の親にも適応可能であれば、子ども虐待のリスクアセスメントのツールの 1 つとして有用であると考えられる。

2. 研究の目的

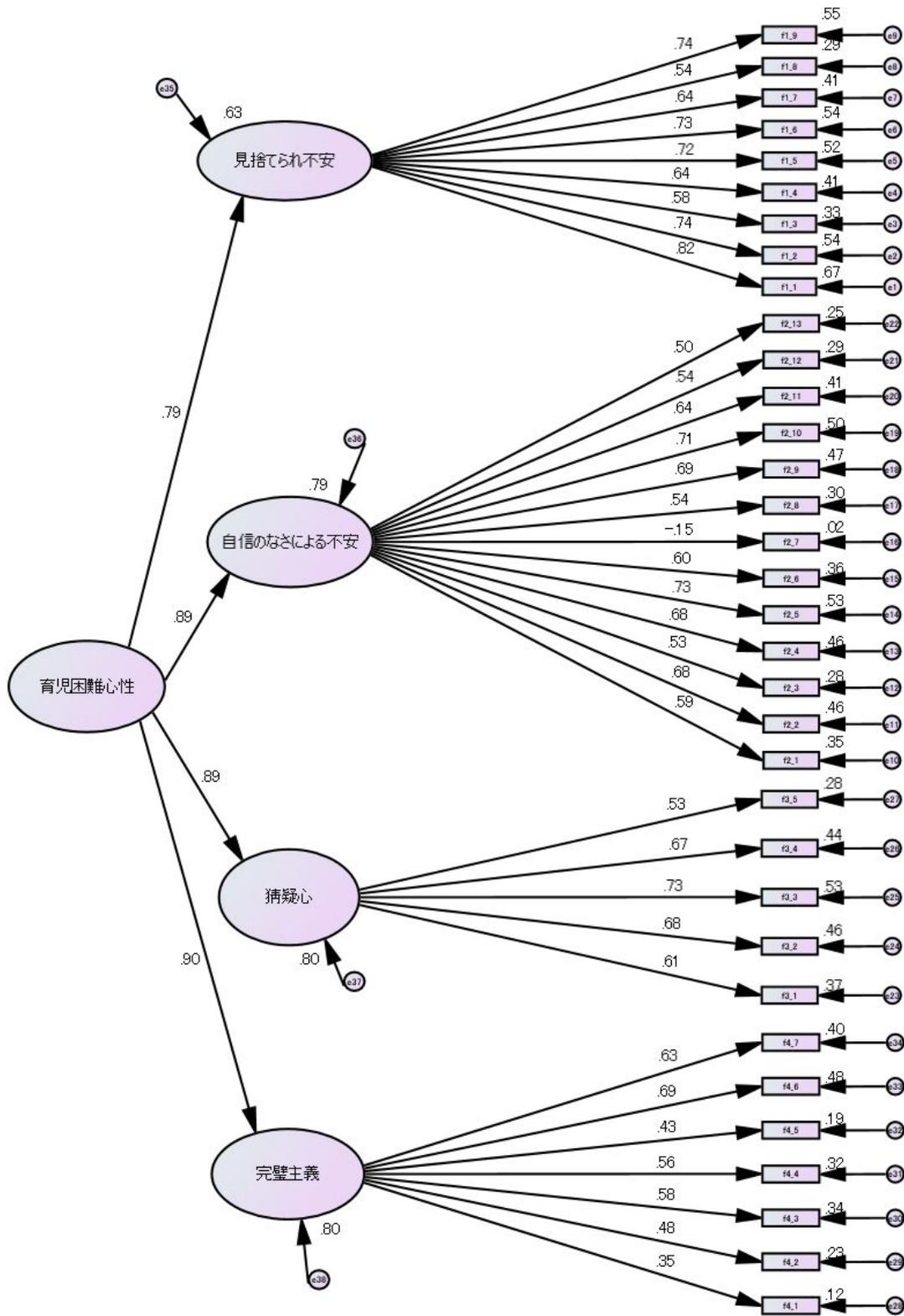
妊娠期の親に対して「育児困難心性尺度」が適応可能か検討すること

3. 研究の方法

マーケティング調査会社の協力を得て、全国の妊婦を対象に育児困難心性尺度について回答してもらい、データを得る (Web による調査)。それらのデータを基に確認的因子分析を行い、モデルの適合度を確認する。

4. 研究成果

全国の妊娠期の母親 322 名 (初産婦 192 名、経産婦 130 名) のデータを得た。そのデータを育児困難心性尺度 (34 項目) で規定している 4 因子 (見捨てられ不安 9 項目、自信のなさによる不安 13 項目、猜疑心 5 項目、完璧主義 7 項目) で確認的因子分析をおこなった。その結果、 $2(523) = 1909.9$ 、 $p = .000$ 、モデルの適合度は $GFI = .714$ 、 $AGFI = .674$ 、 $CFI = .729$ 、 $TLI = .710$ 、 $RMSEA = .091$ であった。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Takahiro Terai
2. 発表標題 Development of a scale of perceived difficulty in child-rearing
3. 学会等名 World Congress on Nursing & Healthcare (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------